

# 2023年度 ITJ安全衛生・健康管理重点方針

**IHI**

2023年4月1日

株式会社 IHIターボ

「すべての災害は防ぐことができる」の信念のもと、全員参加で「災害ゼロ」実現を目指す。  
ITJ一人ひとりと職場がより高い価値を創造するため、ウェルビーイング活動を推進する。

## 1. 目標

安全衛生目標: 災害ゼロ

健康推進目標: 健康度調査項目の平均値: 40%以上の職場で改善

昨年度から継続

### 災害発生における共通の問題点

【作業員(被災者)】「リスクがあるという認識が無い」まま作業を行い受傷



双方の認識に必ず違いはある  
まず認識の違いに気づく

【管理監督者】 「こんなやり方はしない, ルールを守るもの」と考えていた

双方で「気づける」ように, 全員が共通の認識となる取り組みを推進  
作業員と管理監督者が、コミュニケーションを取り、文章として可視化し、  
共通認識化する。手段として、KYMとリスクアセスメント等を活用。

## 2. 安全管理重点方針

### (1) 安全衛生管理に関するコミュニケーション(指示・伝達・確認等)見直し 直接・双方向コミュニケーションの徹底による「意思疎通」の強化

- ・展開した施策・注意事項を確実に全従業員へ周知する。  
=> KYM・災害事例の全員理解
- ・作業者と管理監督者がコミュニケーションを取り、共通認識化する。  
=> 「気づかない」を気づかせ、全員が共通の認識となる取り組み

### (2) 「グループ安全基本原則」徹底により、基本原則に該当する災害撲滅 特に、機械・装置、重量物取り扱い時のはさまれ災害の撲滅

- ・関係者全員参加によるKYMとリスクアセスメント活動を確実に実施する。  
=> リスク洗出し精度を高め、遵守できる対策の実施
- ・過去災害の「はさまれ・巻き込まれ」「にくい作業」や「転倒災害」の防止に注力する。  
=> 非定常な作業や付随する作業についても、危険要因の低減に取り組み
- ・クロスパトロール等の活動推進、本質安全目線のパトロール強化で危険な場所/作業を排除。  
=> 今年度より、高齢者目線のパトロールも計画し改善を推進

### (3) 危険感受性の向上

- ・作業者の主体的なKYMの推進による危険意識・予知レベルの向上
- ・教育の充実による危険感受性の向上(危険体感教育, VRの活用など)
- ・産汎領域内で展開されるVR教育の活用を推進

### 3. 健康管理重点方針

#### (1) オフェンス(攻め)の施策: 個人と組織の活力向上

- ・「気づき・学び」で、従業員エンゲージメント向上、健康度指標の好転を目指す  
=> 「目的を共有でき、成長実感が持てる組織文化」をITJに根付かせる
- ・ウェルビーイングの推進は、まず活力の土台となる健康づくり  
=> 運動・睡眠・食事・禁煙など
- ・誰もが安心して働くことができ、活躍できる職場風土づくり  
=> 人事と安全/産業保健スタッフは、職場のマネジメント系列と連携  
従業員同士が相互に相談しやすい職場風土の醸成に努める

#### (2) ディフェンス(守り)の施策: 心身の不調に速やかに対応できる体制の整備

- ・支援プログラムの活用により早期対応・早期回復・継続支援ができる体制づくり  
=> マネージャ向け教育・セルフケア教育・再適応支援・治療と職業生活支援, 等
- ・基盤となるヘルスケアの継続  
=> 疾病予防対策の推進と、適切な就業措置管理  
特定保健指導と健診結果に基づく、従業員の自己健康管理の推進  
熱中症・感染症の予防対策の徹底

以上